

## 会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区図書館経営協議会（令和7年度第2回）
事務局（担当課）		教育部図書館課
開催日時		令和8年2月6日（金）午後6時00分～午後7時30分
開催場所		中央図書館5階 会議室
議 題		<p>（1）図書館経営協議会 委員意見反映状況について（報告）</p> <p>（2）「にぎやかな公共図書館」の実現に向けて～施設整備を契機とする空間づくり、サービスのあり方を中心として〈地域の情報センターとしての図書館、生涯学習の拠点としての図書館について〉</p> <p>（3）「にぎやかな公共図書館」の実現に向けて～施設整備を契機とする空間づくり、サービスのあり方を中心として〈読書活動の拠点としての図書館について〉</p> <p>（2）その他</p>
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	稲井 達也、河本 毬馨、野中 由香子、春日 美乃 尾花 宏子、数藤 沙綾、渡辺 ひかる、武井 悦子 吉田 和夫、岡田 英男、井上 浩徳
	そ の 他	
	事 務 局	中央図書館長【図書館課長】 図書館課 管理係長、資料係長、サービス基盤係長、 政策主査、サービス運用係長 巣鴨図書館長、千早図書館長 点字図書館グループ主任2名

傍聴希望者 0名

## 【本日の会議について】

会長：ただ今より、第3回豊島区図書館経営協議会を開催する。

本日の会議について、まず議事について事務局から説明し、その後意見交換を行う。

事務局：本日の議題は「地域の情報センターとしての図書館、生涯学習の拠点としての図書館について」「読書活動の拠点としての図書館について」となる。議論いただく前に、これまでいただいた意見の対応状況についてご報告申し上げます。

## 【図書館経営協議会 委員意見反映状況について（報告）】

会長：、事務局から資料の説明をお願いしたい。

（事務局より資料1について説明）

会長：こちらの報告についてご意見があれば伺いたい。

委員：協議会などで意見へのフィードバックはなかなかないのでありがたい。児童の利用促進について、これまで豊島区立図書館でボードゲームを導入していた図書館はあるか。

事務局：イベントとしてはあったが、ボードゲームコーナーとして設置するのは初めて。

委員：研究で使ったアンケートデータがあるのでよければ活用してほしい。

会長：テレビゲーム世代にボードゲームで遊んでもらうのは、コミュニケーションを促進するような狙いか。ヘルシンキの図書館でもボードゲームを取り扱っていて大人も楽しんでいた。

事務局：人と人が交流することを必要とするゲームをしてもらうことで、交流機能を持たせることを狙いとしている。

委員：自習室を作るという話があったが、自習室は持ち込みでの自習が可能か

事務局：持ち込み可となる。

## 審 議 経 過

No. 2

委員：持込自習が可能な席と図書閲覧の席とのすみ分けをしても良いと思う。

会長：中央図書館は持ち込み自習の位置づけはどのようになっているか。

事務局：現在は図書資料の閲覧と図書館資料を使つての学習をする席としている。今後運用の変更を検討している。

委員：広報活動について、豊島区図書館単体の SNS アカウントがあると良い。図書館活動の写真や動画の掲載、イベントの宣伝・報告もできる。人員も必要なため大変かもしれないがぜひ実現してほしい。

事務局：他部署では Instagram のアカウントを持っているが、図書館課でも検討していく。

副会長：3点お話ししたい。1点目はボードゲームについて。町田ではボードゲームの運営を高校生や大学生を募って何をいつやるのかなど、自分たちで決めるような方法で自治活動として行っている。居場所にもつながる。2点目は豊島区の図書館は WiFi が使えるのかどうかお伺いしたい。豊島区全体として対応が必要。3点目は AI を活用して学びを進めるということ。読書と AI は相性が良いため取り入れていってほしい。

事務局：ご質問の WiFi について、現在全館に整備されているが接続状況は場所によって差があり、利用者からの改善要望も出ている。

委員：「ひと棚図書館」が非常に好評だったとのことだが、本学でも「推し本」というスマホから推し本とコメントを入れてもらい、それを展示するという取り組みを行っている。ボードゲームのところでもあったが利用者参加型にするのは良いと思う。

委員：上池袋図書館にできるテラスは屋外となるのか。

事務局：半屋外といった形式。夏はひさしが出るようになっている。

会長：広報活動で、豊島区立図書館では点字の理解促進で小学生向けに講座をやったりしているので、バリアフリーを社会に理解を周知していく一つとなる。本学でもトツテンくんを使った点字を学ぶ講座を行い、多くの人が集まった。若い人たちは学ぶ意欲やバリアフリーの意識もあるので、そういったことも進めていただきたい。

【「にぎやかな公共図書館」の実現に向けて～施設整備を契機とする空間づくり、サービスのあり方を中心として〈地域の情報センターとしての図書館、生涯学習の拠点としての図書館について〉】

会長：続いて「地域の情報センターとしての図書館、生涯学習の拠点としての図書館について」、事務局から説明をお願いしたい。

（事務局より資料2について説明）

委員：ボランティアの高齢化ということがあるが、大学で手話のボランティア活動をする中で、様々な団体からボランティアの依頼が来る。大学には福祉系のサークルもあるので、そういったものを活用することで持続可能な事業を実現できるのではないかと。

事務局：これまで大学のサークルに声をかけるということがなかったので、今後の参考とさせていただきます。

会長：現在の図書館のボランティアは有償か。

事務局：有償、無償どちらもある。

委員：行政資料がペーパーレス化となっているとのことだが、図書館閲覧用に印刷して手にとって見られるようにしたり、二次元コードを置いて、それを読み取ることで見られるようにするのも良いのではないかと。

事務局：区の方針としてペーパーレス化を推進している。中央図書館は電子資料閲覧席があるが、地域館はまだ整備されていないため、各館にタブレットを置くなど対応していく予定。

委員：行政資料は膨大にあるため、どの資料を誰に届けることを目的としているか、発信方法も含めて考えてみると良いのではないかと。また、レファレンス共同データベースは利用しているか。事例を登録することでその館のデータベースとして残すことができる。

事務局：行政資料についてターゲットが誰かを把握することは重要。また、行政資料を紙で見たいという利用者もいるため、資料とは別に印刷して置いておくなどしている。提供方法についてもターゲットを意識しながら対応していく。レファレンス共同データベースは実際のレファレンスで事例検索としては利用している。登録については行っていない。

会長：寄せられやすいレファレンスの傾向があると思うので、データに基づいて運用していくというのも一つの方法となる。

委員：事業案の「大人の調べる学習コンクール」はとても良いと思う。自治体によってはコンクールの大人部門があったり、大人と子どもと一緒に調べるという部門があったりする。豊島区で実施する場合、たとえばマンガや区の歴史など豊島区ならではのテーマで実施しても面白い。生涯学習の拠点としての図書館の方針にも通ずるものがあると思う。審査は大変になるかもしれないが、良い試みだと思う。

委員：先ほどボランティアサークルを活用するというお話があったが、大学のボランティアセンターにお声がけいただくという方法もある。ボランティアセンターでボランティア講座を行ったりしているので、そこに参加した学生が集まるのではないかと思う。また、別の項目での質問となるが、コピー機のさらなる環境整備とはどういったものか

事務局：現在コピー機が新札対応していないため、その対応を行うというもの。

副会長：情報アクセス環境の整備について、電子書籍、電子機器の充実に関係して、学校との連携で調べ学習、探求型の学習が求められている中で電子書籍をどのように活用するか。学校への普及も喫緊の課題となってくると思う。また、豊島区の電子書籍の登録条件はどのようになっているか。

事務局：電子図書館は指定管理者の自主事業となっている。指定管理者より、学校へも広めていきたいとの提案もきているため具体化していきたい。登録条件は豊島区在住・在勤となっている。

会長：府中市では実際に電子書籍を小中学校に導入したことで読書率の向上といった成果もでている。費用との兼ね合いもあるが、一つの方策案ではある。電子書籍を資産としてどう残していくかという検討はされているか。

事務局：電子書籍を資産として残していく方法については、現状まだ未検討となっている。今後検討していく。

**【にぎやかな公共図書館】の実現に向けて～施設整備を契機とする空間づくり、サービスのあり方を中心として〈読書活動の拠点としての図書館について〉】**

会長：続いて、「読書活動の拠点としての図書館について」事務局から説明をお願いしたい。

(事務局より資料3について説明)

委員：オープンスペースでどう会話可能エリアと静寂エリアを区切るかという点で、大学でそれぞれのエリアを壁で区切っていたり、一人用の防音ボックス席がある。大規模な工事となってしまうとおもうので、イヤークフなど貸出をしても良いと思う。

事務局：新千早図書館では基本としてすべての場所で会話可能としながらも、静寂な環境で読書ができる部屋や、防音を維持し耳で聞く読書が行える部屋としても活用できるような部屋も検討している。また、新上池袋図書館では一人がけのボックス席があり、Webで予約できるよう進めている

会長：新図書館は豊島区の施策に沿ったものになっているか

事務局：豊島区基本計画にも居場所としての図書館を謳っており、それを実現するための一つだと考えている、また、既存館についてはにぎやかエリアをすぐに作ることは難しく、今後検討していく。

会長：多様性について、性的マイノリティの点ではどうか。

事務局：だれでも気軽に訪れることができる環境づくりを目指しており、性的マイノリティの方ももちろん含まれている。

委員：自習をしている高校生を見ていると、学習している途中で分からないことがあったときにスマートフォンで調べていた。図書館の本を使うことで、より理解を深めたり、教科書には載っていないことを知ることができるので、書架の前面に学校の勉強に有用な図書を出すなどして、持込自習を前向きに検討してほしい。

委員：障害者、高齢者、外国籍の方などにむけてひかり文庫ではデージーなどがあるが、ひかり文庫以外でもそういった資料を充実させて、広く理解が進むと良い

事務局：子どもたちに障害を持った方について知ってもらうことも図書館の使命であると考えている。今年度は点字に関する事業を3回行い、「トツテンくん」というキットをつかった。今年は点字ができて200年という年でもあり、イベントを多く開催し子どもたちにも多く参加していただいた。

委員：読書ノートを子ども向けに行っているとのことだが、大人向けの読書通帳といったものの導入はあるか。

事務局：指定管理館では読書通帳を行っている。直営館では未実施のため今後導入していけたら思っている。

委員：静寂スペースの関係で、ドイツの図書館には入口に耳栓がガチャガチャのようなものに入っていて、低価格で回せるものがあった。そういったものを置くのも良いと思う。また、対象利用者別の読書推進の中で、若年層に向けたイベントとなるとやはり有名な人と呼ぶのが一番喜んでいる印象。実際に山梨県内の図書館イベントで有名声優を呼んだら大盛況だった。他にも友達と一緒に参加できるプログラムも有効だと思う。

事務局：予算次第にはなってしまうが、検討していきたい。図書館の若年層の利用状況として、巣鴨のYAコーナーは20代くらいまでの方がよく来られていて、土日は席も埋まっている。平日は利用が少ない。夏休み、冬休みといった休暇期間は利用が増える傾向がある。

委員：大学の図書館は小説が少ない印象。その代わり新書や学術書は数が多く、新刊の入荷も早い。また、有名な人と呼ぶ場合、図書館であれば作家を呼んでみるのも良いと思う。

## 【その他】

会長：最後に、その他について事務局から報告をお願いしたい。

### (1) 学校連携について

事務局：教育部移管前から学校との連携は行っていたが、今年から学校司書連絡会に図書館司書や係長が加わりさらなる強化を進めている。学校図書館の課題、要望等を聞き、子どもたちと本との出会い促進に努めていきたい。

### (2) としま子ども会議

(事務局より参考資料3について説明)

会長：子どもの意見を行政に反映させるということはなかなかできないことなので、とても良い取り組みだと思う。

# 審 議 経 過

No. 7

会長：本日の議事は以上となる。予算や人員の関係もあるのですべてをすぐに実現というのは難しいと思うが、これまでの豊島区立図書館からかなり前進したのではないかと感じている。努力の賜物だと思う。

(事務局より事務連絡)

会長：以上で令和7年度第2回図書館経営協議会を終了する。

会 議 の 結 果	
提出された資料等	資料 1…令和 6 年度、7 年度 豊島区図書館経営協議会 ご意見 対応状況について 資料 2…地域の情報センターとしての図書館、生涯学習の拠点と しての図書館について 資料 3…読書活動の拠点としての図書館について  参考資料 1…「にぎやかな公共図書館」の実現に向けて（令和 6 年 度第 2 回会議資料） 参考資料 2…NDC ピクトグラム 参考資料 3…としま子ども会議報告会資料